

## < 幼児向き >

### 「さくら」

長谷川 摂子／文 矢間 芳子／絵・構成

福音館書店刊

はる さくらのきは たくさん はなをさ  
かせます。なつがきて あきがすぎ ふゆ  
になり……そしてまた はなのさくはるが  
やってきます。

### 「パンダないきりたいそう」

いりやま さとし／作

講談社刊

なりきりたいそう はじめるよ！ バナナ  
のポーズ ひこうきのポーズ……。パンダ  
たちのだいへんしん！ きみはできるか  
な？パンダといっしょに やってみよう！

### 「このはなだれの？」

堀 浩／監修 内山 晟／写真

ひさかたチャイルド刊

このおはな だれのかな？ わかるかな？  
おおきなしゃしんで みてみよう。

### 「じいじのさくら山」

松成 真理子／さく

白泉社刊

じいじは うれしいことがあると さくら  
をうえてきた。ことしも じいじのつくっ  
たさくら山で はるのまつりがはじまるよ。

### 「おたすけこびととおべんとう」

なかがわ ちひろ／文 コヨセ ジュンジ／絵

徳間書店刊

おたすけこびとたちが おべんとうのはい  
たつを ひきうけました。トラックにつん  
で さあしゅっぱつ！

### 「はらぺこあおむし」

エリック・カール／さく もり ひさし／やく

偕成社刊

うまれたばかりの はらぺこあおむし。  
びっくりするほど おいしそうなたべも  
のを いっしゅうかん もりもり たべ  
つづけます。そして おおきく ふとっ  
ちよになった あおむしは……。

### 「おなべおなべにえたかな？」

こいで やすこ／さく

福音館書店刊

きつねのきっこは おおばあちゃんに お  
なべのぼんを たのまれました。コトコト  
フツフツ グツグツ……。はるのスープは  
どんなあじに なったかな？

### 「てじなでだましっこ」

佐伯 俊男／さく

福音館書店刊

おりがみ わゴム トランプ ハンカチ…  
…。よくあるものを つかって てじなを  
やってみよう！

おとなのひとに やってみせても きっと  
びっくりされますよ。



## <低学年向き>

### 「うまれたよ！ サンショウウオ」

松沢 陽士／写真・文

岩崎書店刊

たんぼのみずのなかで、サンショウウオのたまごをみつけたよ。なんどもすがたをかえて、おとなになっていくサンショウウオ。トウキョウサンショウウオをしゃしんでしようかい。

### 「きいろいばけつ」

もりやま みやこ／作 つちだ よしはる／絵

講談社刊

きつねのこが、まるきばしのたもとでみつけたきいろいばけつ。きつねのこは、まえからそんなばけつがほしいとおもっていました。そこできつねのこは……。



### 「ランドセルがやってきた」

中川 ひろたか／文 村上 康成／絵

徳間書店刊

うみひこくんは、おじいちゃんにもらった青いランドセルをしょって、そとをひとまわり。よっ、いちねんせい！

### 「あずき」

荒井 真紀／さく

福音館書店刊

あずきは、ちょっとほそながくてまるい、あかいおまめ。ちょうりをすると、あんこになる。あずきを土にまいて、あんこになるまでを見てみよう。

### 「2ひきのかえる」

にいみ なんきち／作 しまだ・しほ／絵

理論社刊

おたがいの色のわるぐちを言ってけんかになった、みどりのかえるときいろのかえる。「春<sup>はる</sup>になったら、このけんかのしょうぶをつける」とやくそくして土<sup>つち</sup>にもぐりました。やがて春がやってきて……。

### 「パンどろぼう」

柴田 ケイコ／作

KADOKAWA刊

パンどろぼうは犬<sup>だい</sup>のパン<sup>ず</sup>好き。ぬすんだパンをおいしくたべる。きょうも「せかいいちおいしいもりのパンや」からパンをぬすんだが……。

### 「お・は・よ・う」

いまむら あしこ／文 ひらさわ とまこ／絵

あすなる書房刊

「お」は、おひさまの「お」。「は」は、はるかぜの「は」。「よ」は、よしおの「よ」。さて、「う」は……。

「ねえ、このじ、なんてよむの？」

### 「はちみつができるまで」

ひさかたチャイルド刊

みんなが食べているはちみつがどうやってできるのか知っているかな。はちみつになる花のミツをあつめてくれたのはミツバチ。とろーりあまいはちみつができるまでを見てみよう。

## < 中学年向き >

### 「島の子げんたの春休み」

荒尾 美知子／文 福田 岩緒／絵

あすなる書房刊

瀬戸内海せとないかいの小島こじまで暮らしている「ぼく」の家に、いとこのゆかがやってきた。「ぼく」とゆかの楽しい春休みの始まりだ。

### 「本屋さんのルビねこ」

野中 柊／作 松本 圭以子／絵

理論社刊

本に積もったほこりから生まれた、ねこのルビ。飼い主のモシモさんがいとな営む本屋さんのかんばん看板ねこになります……。

### 「じっけん きみの探知器」

山下 恵子／文 杉田 比呂美／絵

福音館書店刊

見たり、聞いたり、味わったり、においをかいだり、さわったり。当たり前だと思っているけど、とっても不思議なことなんだ。きみの探知器でじっけんしてみよう。

### 「なんでもただ会社」

ニコラ＝ド＝イルシング／作

末松 氷海子／訳 垂石 眞子／絵 講談社刊

三原 紫野／絵 日本標準刊

いたずらずきのティエリーは、ほしいものをなんでもただでくれる会社に、ぐうぜん電話してしまった。うらやましい？うまい話にはご用心……！

### 「さくら村は大さわぎ」

朽木 祥／作 大社 玲子／絵

小学館刊

子どもが生まれると、さくらのなえぎ苗木を一本、家の庭にわに植える約束があるさくら村。この村では、毎日いろんなことが起きるんです。

### 「春の妖精たち スプリング・エフェメラル」

奥山 多恵子／文・絵

福音館書店刊

「スプリング・エフェメラル」とは、春先めに芽を出し、淡い色あわの花を咲かせる植物のこと。別名「春の妖精」ともよばれる植物たちの一年間を見てみましょう。

### 「おそうじをおぼえたがらない リスのゲルランゲ」

ジャンヌ・ロッシュ・マゾン／作

山口 智子／やく 堀内 誠一／え

福音館書店刊

末っ子リスのゲルランゲは、ごはんをもらえないことよりも、野宿のじゆくをすることよりも、オオカミに食べられることよりも、おそうじをおぼえるのがイヤなのです。

とうとう家を追い出されたゲルランゲ、たちまちオオカミにつかまってしまいが……。

### 「ぼくは少年鉄道員」

西森 聡／写真・文

福音館書店刊

ドイツには、子どもたちが中心になってうんこう運行している鉄道てつどうがあります。その名は、ベルリン公園鉄道 (BPE)。駅長も車掌もえきちよう機関士しやしやうもみんな子どもです。

ベルリン公園鉄道ではたら働く子どもたちはどのような仕事をしているのでしょうか？

## <高学年向き>

### 「ホタルイカは青く光る」

阿部 秀樹／写真と文

小学館刊

とやまわん <sup>めいぶつ</sup> 富山湾の春の名物はホタルイカ。この海では、青く <sup>はっこう</sup> 発光したホタルイカが <sup>かいがん</sup> 海岸に打ち上げられる「ホタルイカの <sup>みな</sup> 身投げ」という <sup>げんしょう</sup> 現象が見られます。

ホタルイカの <sup>せいたい</sup> 生態を写真と文で紹介します。

### 「さよならエルマおばあさん」

大塚 敦子／写真・文

小学館刊

病気でもう長くは生きられないと知ったエルマおばあさんとその家族の1年間の記録。

### 「みどりのゆび」

モーリス・ドリュオン／作 安東 次男／訳

岩波書店刊

自分の指が、不思議な力を持つ<みどりのゆび>だと気づいた少年チト。その不思議な力を使って……。

### 「セカイを科学せよ！」

安田 夏菜／著

講談社刊

日本とロシアをルーツに持つ中学生のミハイル。日本とアメリカをルーツに持つ転校生の <sup>はな</sup> 葉奈。二人と科学部のメンバーは、生物班の <sup>そんぞく</sup> 存続をかけて、学校に活動の成果を示すことになるが……。

### <sup>まきのとみたろう</sup> 「牧野富太郎 日本植物学の父」

清水 洋美／文 里見 和彦／絵

汐文社刊

日本全国の <sup>のやま</sup> 野山を歩いて植物を <sup>さいしゅう</sup> 採集し、数多くの <sup>しんしゅ</sup> 新種を発見した植物学者、牧野富太郎。 <sup>けんきゅう</sup> 研究に <sup>じょうねつ</sup> 情熱を燃やした94年の人生を描きます。

### <sup>こてき</sup> 「狐笛のあなた」

上橋 菜穂子／作 白井 弓子／画

理論社刊

となりどうし、あらそいのたえない国。里のは <sup>さよ</sup> ずれにかくれ住む小夜と <sup>こはるまる</sup> 小春丸は <sup>れいこ</sup> 霊狐の <sup>のび</sup> 野火と出会って……。

### <sup>なこ</sup> 「菜の子先生がやってきた！」

富安 陽子／作 YUJI／画

福音館書店刊

どこからともなく学校に現れる不思議な先生、菜の子先生。空飛ぶ本をつかまえたり、うさぎ穴に飛びこんだり、今日も菜の子先生は大活躍！

### 「いろ（日本のことばずかん）」

神永 暁／監修

講談社刊

日本語には色を表す言葉がとても多いと言われています。色の名前の意味や由来を通して、日本人の豊かな心や思いを感じてみてください。

